



人権だより



2013年度 第5号

発行所：大分県立日田林工高等学校

発行責任者：校長 生田 茂

しゅうしょくせんこうしけん はじ

9月16日から就職選考試験が始まります。



氏名	性別	生年月日	学年	所属部
〇〇〇〇〇〇	男	〇〇/〇〇/〇〇	〇〇	〇〇部
〇〇〇〇〇〇	女	〇〇/〇〇/〇〇	〇〇	〇〇部
〇〇〇〇〇〇	男	〇〇/〇〇/〇〇	〇〇	〇〇部
〇〇〇〇〇〇	女	〇〇/〇〇/〇〇	〇〇	〇〇部

◎3年生にとっては大切な進路決定の時期になりました。
 各科の3年生は夏休みもほとんどない状態で、補習に取り組んだり、求人票を見たり、会社訪問や学校見学を行ってきました。そして、受験先が決まり、履歴書(統一応募用紙)の記入、面接指導等に取り組んでいます。

ここで、履歴書である統一応募用紙制定の経緯や面接試験での違反質問などについて簡単に説明します。詳しいことは、

3年生の1学期の人権HRで学習します。

なぜ、統一応募用紙は今のよう形になったのでしょうか。少し前まで、各企業は社用紙と呼ばれる独自の願書を使っていました。その中には、家族構成や家族の職業・年齢や財産、読んでいる新聞など、受験する本人には、直接関係ないことを書く欄がありました。そんな中、人権問題に取り組んでいる学校や生徒が、「自分の就職には関係ないことが多い。」と訴え、現在のよう統一応募用紙(履歴書)と言われる形になりました。この統一応募用紙は、全国の高校生の就職用書類として使われています。また、各企業で行われる面接でも、以前は本人の就職には、全く関係ないこと(例えば、家族の年齢・職業、家族の収入や財産、血液型など)も平気で質問されていました。中には、とても答えにくいことをしつこく聞かれ、辛い思いをした生徒もいました。皆さんが取り組んでいる人権学習は、「私には関係ない。」と思っている人がいるかもしれませんが、自分の立場に置き換えてみてください。「こんなことは聞かれたくないな。」「こんなことは知られたくないな。」と思うことがありませんか。私たちの身の周りには、たくさんの人権の問題があります。たまたま今の自分には関係がないと思うことが多いかもしれませんが、いつ自分に大き関わってくるか、分かりません。私たちが人権侵害の被害者(人権侵害を受ける)にならないことはもちろんですが、加害者(人権侵害をしてしまう)にならないようしっかりと学習を重ねましょう。

【違反質問(家の購読新聞を聞かれた)に直面した高校生の感想】
 (大分県人権教育研究協議会「子どもたちに確かな未来を」より)

私は差別のことにしても、今回の違反質問にしても何も知らなかったら、答えていただろうし、今後も自分が不利にならないように立ち回らるだろう。私たちが何も知らなくても、差別は現実があり、何も悪くない誰かが差別されているのだ。

これから先、どんな小さなことでもいいから何かが変わり、何かの役に立つとすれば、私はそれで十分だと思えるようにしたい。(※字数の関係で、省略している部分があります。)

こんげつ てーま
今月のテーマは



「マイノリティー」です



1学期に人権についてアンケートをとりましたが、覚えていますか？そのとき、2・3年生でよく知らない言葉として最も多かったのが「セクシャルマイノリティー」です。今回は、この「マイノリティー」について説明したいと思います。

「マイノリティー」とは、社会的少数者または社会的少数集団と言われ、グループの一員であることによって社会的な偏見や差別の対象になったりします。また、社会的に弱い立場におかれている場合にも「マイノリティー」と呼ばれることがあります。（ウィキペディアより）

つまり「セクシャルマイノリティー」とは、「性的少数者」ということです。

多くの方は、男性は女性を、女性は男性を好きで当たり前と考えており、家族制度は異性愛を前提として考えられていました。性的少数者であることが発覚した場合には、偏見・差別の対象となっていました。しかし最近、世界の国や地域によっては、同性愛者の結婚が認められるなど、少しずつ変化してきています。



日本でも、1998年10月に性同一性障がいの方の性転換手術が行われました。しかし、戸籍上の性別は元のままで結婚や就職が困難な状況でした。各地の裁判所に戸籍上の性別表記の停止を求めて申し立てを行いました。そして、2003年7月、国会で「性同一性障がい者の取り扱いの特例に関する法律」が成立しました。ようやく、性的少数者と言われる人たちが認められたのです。最近では、テレビや雑誌などで「オネエ系」（呼び方が適切かどうか分かりませんが）として活躍している人たちも見られるようになりました。しかし、このような人たちにとってまだまだ世の中には、理解できない人や理解しようとならない人たちも多くいます。あなたはどうですか。

「マイノリティー」は、「性同一性障がい」の問題だけではありません。日本の中には「部落問題」や「アイヌ民族」「ホームレス」「エイズ」「ハンセン病」の問題などまだまだ多くあります。世界では、もっともっとたくさんあります。



社会が複雑化、高度化し、また情報化が進展していくにつれ、スマホ・携帯電話・パソコンなどを使ってのプライバシーの侵害、誹謗・中傷やいじめ、少数者への嫌がらせなど、様々な問題が表面化しています。

私たちは、全ての人たちが自分らしく安心して暮らせる世の中を目指していかなくてはなりません。

図書館やインターネットなどを利用して、世の中にある様々な人権問題を学習してみませんか。

人は誰でも自分らしく生きる権利を持っています。それは、お互いに尊重し、尊重されなくてははいけません。お互いを認め合える学校にしましょう。